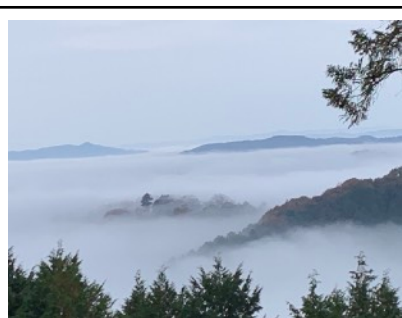
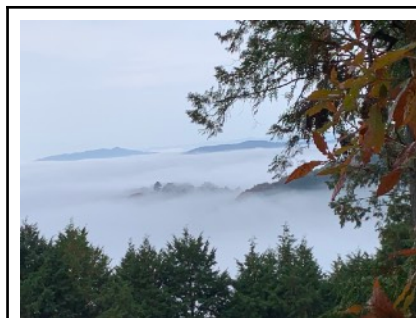


備中松山城（日本百名城）

13世紀中頃に築かれた山城を、江戸時代に小堀氏が整備し、その後水野氏が大改修した近世城郭。標高430mの小松山山頂に建つ天守は、小規模だが山城に現存する唯一の天守。城は大松山城などの山城をいわば放棄し、小松山を中心に近世城郭改築された。主要な曲輪は階段状に配され、高石垣が強固な防御線を構成している。

歴史

鎌倉	延応2年（1240）	秋庭重信が備中有漢郷の地頭として臥牛山の大松山に砦を築く
	元弘1年（1331）	高橋宗康が地名を松山と改め、城を小松山まで拡張
江戸	慶長5年（1600）	関ヶ原合戦後小堀正次、徳川家の代官として入城
	慶長9年（1604）	父正次の急死後政一（遠州）が継承
	元和3年（1617）	池田長幸が因幡鳥取より入封、新田開発、城下町拡張
	寛永19年(1642)	池田氏が無嗣除封となり成羽から水谷勝隆が入封、高梁川の水路開削、玉島港を開く
	元禄7年(1694)	水谷氏が無嗣除封となり、播磨赤穂藩預かり。家老大石内蔵助が城番として滞在
	元禄8年(1695)	安藤重博、上野高崎から入封
	延享1年(1744)	板倉勝澄が伊勢亀山から入封。学問所（後の有終館）を設立
明治	明治1年(1868)	板倉氏が反政府運動の為松山藩は朝敵とされ岡山藩が占領する
	明治2年(1869)	板倉氏に家名相続が許され藩再興。版籍奉還
	明治6年(1873)	廃城令で山麓の政庁は壊されたものの天守の破却は免れた



雲海に浮かぶ備中松山城を見るため雲海展望台へ。松山城の天守とは別の峰にある。冬、朝の冷え込みが強まってくる時期、晴れすぎても曇りすぎても良くない。幸いちょっとの時間顔を出してくれた。

雲海から顔を出した松山城を見ていよいよ臥牛山に建つ備中松山城へ向かう。
標高430mのふいご峠まではタクシーで。それより上は車は入れない。
杖を頼りに急な山道を20分。

まず目に入ってくるのは大手門跡



大手門から崎には多くの石垣が残っているが、ひときわ目を引くのが大手門の右手にそびえる石垣群。

天然の岩盤の上に石垣を築き更に土塀を建てている。霧の中に幻想的な風景。



鏡石の前で



最も高い位置に現存する山城（標高430m）

